

# 「作られたものから作るものへ」－主体形成としての住宅

連続シンポジウム vol.1 住まいの主体性とは－「おや？」の契機としての事象

2014年7月16日（水）13：30～17：00

会場：SONORIUM 東京都杉並区和泉3-53-16

一般 1000円 学生 500円

（参加費はすべて東日本大震災復興義援金として被災地にお送りいたします）

高度消費社会の時代、「生産—消費」の巨大市場システムに埋没し、主体が希薄になっているのは住まいの状況でも同じではないかという問題意識から「住まいの主体性」を考えてみたい。そのために「作られたものから作るものへ」という西田幾多郎のテキストを参照した。しかし、「なぜ作る？作る時代は終わった」という誤解（ハードのことを指すのではないのだが）をはじめ「昔が良かったというステレオタイプ的考えはおかしい」、「日本にはもともと主体性はなかったのではないか？」等の見方もあり、いまだ混沌とした渦が巻いている。

技術をはじめ様々な進歩は否定されるものではなく、また過去に戻れということでもないが、このテーマの背景は、今を生きる我々が未来を見つめる時に、もういちど住むという根源（それは“場所”に存在を関係づける、生きる主体的行為）に立ち返り、主体性を発揮する道を見つめ直すべきではないかとの疑問にある。

今年度の住総研シンポジウムは全3回を予定しているが、第1回目ではそんな住まいの主体性について、「おや？」といったん立ち止まって考える機会を与えていた事象について議論を行う。

木下勇（千葉大学大学院教授 住総研研究運営委員会委員長）

講師

池田秀紀（暮らしかた冒険家）/小林崇（ツリーハウスビルダー）/馬場未織（建築ライター）

司会・趣旨説明

木下勇（千葉大学大学院教授）

コメンテーター

村田真（日経BP社建設局編集委員）

# 第39回住総研シンポジウム 作られたものから作るものへ—主体形成としての住宅 東日本大震災復興支援事業 vol.1 住まいの主体性とは —「おや?」の契機としての事象

## プロフィール

### 池田 秀紀

暮らしかた冒険家

妻の伊藤菜衣子とともに「高品質低空飛行生活」をモットーに結婚式や新婚旅行、住居などの「これからのあるまえ」を模索中。100万人のキャンドルナイト、坂本龍一のソーシャルプロジェクトなどのムーブメントのためのウェブサイトやメイビジュアルの制作、ソーシャルメディアを使った広告展開などを手がける。2014年夏、札幌国際芸術祭への参加が決定し札幌に移動中、次なる冒険のまっただ中。  
暮らしかた冒険家 #hey meoto <http://meoto.co>  
札幌国際芸術祭 2014  
<http://www.sapporo-internationalartfestival.jp>

### 小林 崇

ツリーハウスビルダー

スタイルとデザイン、感性をコンセプトにしたツリーハウスを創作する日本のツリーハウス第一人者。1994年ツリーハウス建築の世界的権威ピーター・ネルソンに出会い、毎年オレゴン州で開催されるツリーハウスの国際イベント「WTC (World Treehouse Conference)」に日本から唯一参加するようになる。世界中のツリーハウスビルダーや樹木医と交流しながら、最先端の技術やデザイン、樹木学等を学び、ツリーハウス情報を共有している。2000年ジャパン・ツリーハウス・ネットワーク (JTN) を立ち上げ、「07年には株式会社ツリーハウス・クリエーション (THC) を設立。沖縄から北海道まで、各地の風土・樹木に適したツリーハウスの制作にあたっている。いつもと違う視点や発想を得られる木の上の空間、ツリーハウス。人が夢中になれる遊びと捉え、夢をあきらめないことや遊びの中から学ぶことを大切にし、自然で豊かな生き方という価値観を提案している。

### 木下 勇

千葉大学大学院教授

1984年 東京工業大学大学院博士課程修了 工学博士、農村生活総合センター研究員、千葉大学園芸学部助手、助教授を経て、2005年 千葉大学大学院園芸学研究科教授、現在に至る。  
主な著書に、『実践! コミュニティデザイン』彰国社(2013共著)、『子どもがまちをつくる』萌文社(2010共著)、『子どもが道草できるまちづくり』学芸出版社(2009共著)、『子どもたちが学校をつくる』鹿島出版会(2008翻訳)、『ワークショップ』学芸出版社(2007)、『日本の都市再開発におけるアイデンティティと持続可能性について』『都市計画論文集』No.46,vol.3(2011共著)、『都市計画と公共の福祉』に関する「子どもの参画」と「場所の感覚」からの考察』『公共研究』Vol.4, No.1(2007)

### 馬場 未織

建築ライター

1996年日本女子大学卒業、1998年同大学大学院修了後、建築設計事務所勤務を経て建築ライターへ。プライベートでは2007年より家族5人とネコ2匹、その他その時に飼う生きものを連れて「平日は東京で暮らし、週末は千葉県南房総市の里山で暮らし」という二地域居住を実践。東京と南房総を通算約200往復する暮らしの中で、里山での子育てや里山環境の保全・活用、都市農村交流などを考えるようになり、2011年に農家や建築家、教育関係者、造園家、ウェブデザイナー、市役所公務員らと共に任意団体「南房総リパブリック」を設立し、2012年に法人化。現在はNPO法人南房総リパブリック理事長を務める。メンバーと共に、「里山学校」、「洗足カフェ」(目黒区)、「三芳つくるハウス」の運営などを手掛ける。

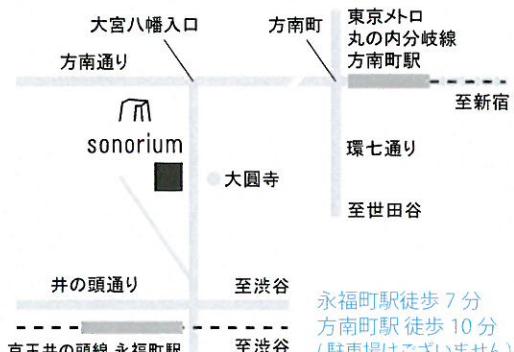
### 村田 真

日経BP社 建設局編集委員

日経BP社建設局編集委員。83年日経マグロウヒル社(現日経BP社)入社。「日経アーキテクチャ(NA)」「日経リアルエステート・東京(NRE)」「日経ホームビルダー(HB)」の編集に携わり06年より現職。都市計画・まちづくり、集合住宅、建築関連法令・法務、職能、木造の各分野を主に取材。「有名建築その後 軽井沢夏の家」(84年NA)、「総量規制の功罪」(91年NRE)、「分譲マンションの憂うつ」(95年NA)、「甦る11棟のマンション」(97年NA別冊)などを企画・編集。近年はHB連載「住宅事件簿」や別冊「木造住宅現場管理大系」(06年)、「DVD講座 耐震リフォーム」(10年)、ウェブサイト「マンション管理新時代」などの企画・編集・運営を担当。03年より日本建築士会連合会専攻建築士認定評議会委員、08年より住総研清水康雄賞選考委員。

## 会場: sonorium

東京都杉並区和泉 3-53-16 TEL03-6768-3000



## 申込方法

住総研 HP ([http://www.jusoken.or.jp/symposium/jusokensympo\\_39.html](http://www.jusoken.or.jp/symposium/jusokensympo_39.html))  
または、下記にご記入の上、FAXでお申し込みください。

■申込締切 7月10日(木) 定員100名(先着順)

## お問い合わせ

一般財団法人住総研

156-0055 東京都世田谷区船橋4-29-8  
TEL:03-3484-5381/FAX:03-3484-5794  
e-mail:sympo@jusoken.or.jp

このシンポジウムは継続職能研修(建築士会CPD)認定プログラム(3単位)です

参加申込み  
締切 7月10日

お名前(ふりがな)

ご所属(□一般 □学生)

ご連絡先(□ご所属 □ご自宅)

(〒 - )

e-mailアドレス

TEL

FAX

住総研 FAX: 03-3484-5794

今年度住総研では「作られたものから作るものへ—主体形成としての住宅」を重点テーマとし、様々な活動を行っています。研究助成のほか、住総研シンポジウムの開催に加え、当財団図書室でも関連資料を揃えております。当財団ホームページにて関連資料リストを掲載しておりますのでご覧ください。